

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：82406

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11267

研究課題名（和文）心不全の緩和ケアに関する研修プログラムの効果検証

研究課題名（英文）Effectiveness of educational program regarding palliative care for heart failure

研究代表者

松井 美帆（Matsui, Miho）

防衛医科大学校（医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・その他・教授

研究者番号：60346559

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、看護師を対象に心不全緩和ケアの研修プログラムを実施し、その効果を検証した。介入群には90分からのオンライン研修を行い、心不全緩和ケアの概念、症状マネジメント、意思決定支援等についてテキストを用いて説明した。対照群には同様のテキストを送付した。対象者全体の平均年齢は39.95歳、看護師経験年数は平均16.94年であった。心不全の研修プログラムの効果について、緩和ケアに関する知識については、介入群では介入前に比較して介入直後に得点が上昇し、対照群においてもテキスト閲覧直後に同様の傾向が認められた。緩和ケアに関する困難感では、両群共に介入前に比較して1か月後に得点が減少していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

緩和ケアを必要とする人の3人に2人は心臓、肺、肝臓、腎臓、脳など慢性疾患の非がん疾患であるとされている。わが国でも高齢化の進展を背景に非がん疾患の緩和ケアのニーズが高まっている。2018年4月の診療報酬改定により緩和ケアの対象疾患に末期心不全が追加されたが、予後予測が困難であること、患者・家族と医療者とのコミュニケーション不足などにより適切な緩和ケアが提供されているとは言い難い現況にある。医療チームの一員として、看護師が心不全の臨床経過や予後、アドバンス・ケア・プランニングについて精通した上で、適切な症状マネジメントを行うことは、心不全の診断時からの緩和ケアにおいて重要である。

研究成果の概要（英文）：This study examined the effectiveness of palliative care seminar regarding heart failure for nurses. The intervention groups received a ninety-minutes online seminar about concept of palliative care for heart failure, symptom management, and decision-making, and so on using handout. The control groups received the same handout by mail. Participant demographics were mean age 39.95 years and nursing experience 16.94 years. The effectiveness of the current seminar regarding heart failure were shown that knowledge score of palliative care increased in both groups after the seminar or reading handout. Additionally, difficulty score of palliative care decreased after one month in both groups.

研究分野：老年看護学

キーワード：心不全 緩和ケア 研修プログラム 看護師

### 1. 研究開始当初の背景

WHO と世界緩和ケア連合の報告によると、緩和ケアを必要とする人の3人に1人は末期がんであるが、3人に2人は心臓、肺、肝臓、腎臓、脳など慢性疾患の非がん疾患であるとされている。欧米では非がん疾患患者の緩和ケアニーズを明らかにするために大規模調査が行われ、非がん患者が死亡前に多くの苦痛を体験していることが明らかになり、非がん疾患の緩和ケアが押し進められた。わが国でも高齢化の進展を背景に非がん疾患の緩和ケアのニーズが高まっている。2018年4月の診療報酬改定により緩和ケアの対象疾患に末期心不全が追加されたが、予後予測が困難であること、患者・家族と医療者とのコミュニケーション不足などにより適切な緩和ケアが提供されているとは言い難い現況にある。医療チームの一員として、看護師が心不全の臨床経過や予後、アドバンス・ケア・プランニングについて精通した上で、適切な症状マネジメントを行うことは、心不全の診断時からの緩和ケアにおいて重要である。

緩和ケアの普及に向けて医療従事者を対象とした教育については、これまでがん対策推進基本計画において、医師を対象にがん患者に対する基本的緩和ケアの教育プロジェクトを行うPEACEプロジェクト、看護師を対象としてELNEC-Coreを始めとして、ELNEC-Geriatricなどが開発され、緩和ケアの理解について一定の効果が得られている。また、これらの教育を行うに当たって、医師や看護師の緩和ケアに関する教育ニーズを明らかにした調査報告も散見されるが、心不全の緩和ケアに関する教育ニーズや教育効果を検討した報告はなく、研修プログラムについてもその内容は確立していない。以上のことから、診断時からの心不全の緩和ケア導入へ向けて、看護師の心不全の緩和ケアに関する教育ニーズを明らかにした上で、心不全の緩和ケアに関する研修プログラムを実施し、効果を検証していくことが重要である。

### 2. 研究の目的

本研究では、心不全を対象に診断時からの緩和ケアの普及へ向けた研修プログラムの効果を検討することを目的として、1)循環器病棟に勤務する看護師を対象に、緩和ケアに関する教育ニーズを明らかにする(研究1)、2)心不全の疾患特性を踏まえた緩和ケアについて看護師を対象とした研修プログラムを実施、その効果を検証する(研究2)。

### 3. 研究の方法

#### (1)研究1

循環器病棟に勤務する看護師を対象に自記式質問紙調査を行った。調査内容は心不全緩和ケアについて疼痛マネジメント、症状マネジメント、意思決定支援など10項目、教育ニードアセスメントツール 臨床看護師用であった。

#### (2)研究2

心不全緩和ケアの研修プログラムの受入れおよび効果について、循環器病棟に勤務する看護師を対象に、介入群には90分からなるZoomによるオンライン研修を実施した。

研修プログラムの内容は心不全緩和ケアの概念について疫学、わが国の状況、緩和ケアのニーズ、心不全の病態・治療と経過・予後として病態、予後、薬物療法・非薬物療法、症状マネジメントとして緩和ケアニーズの評価、心不全で出現する症状、症状評価、意思決定支援ではコミュニケーション、アドバンス・ケア・プランニング、多職種連携では心不全緩和ケアチーム、各職種の役割、地域連携について、テキストを用いて説明を行った(表1)。対照群には閲覧用に同様のテキストを送付した。

両群に介入前、介入(閲覧)直後、1か月後に、開発者の許諾を得て心不全用に一部改変した緩和ケアに関する医療者の知識・困難感・実践尺度、研修プログラムの受入等に関する質問紙調査を実施した(表2)。

表1 研修プログラム

内容	項目	時間
講義1 心不全の緩和ケア概論	心不全の緩和ケアの疫学	15
	心不全緩和ケアのわが国の状況	
	心不全緩和ケアのニーズ	
講義2 心不全の病態・治療と経過・予後	心不全の病態	15
	心不全の予後	
	薬物療法・非薬物療法	
講義3 症状マネジメント	緩和ケアニーズの評価	30
	心不全で出現する症状 症状評価	
講義4 意思決定支援	コミュニケーション アドバンス・ケア・プランニング	15
講義5 多職種連携	心不全緩和ケアチーム	15
	各職種の役割 地域連携	

(分)

表2 調査内容と時期

	ベースライン時	介入直後	1か月後
基本的属性			
研修会の評価			
緩和ケアに関する知識			
緩和ケアに関する困難感			
緩和ケアに関する実践			

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究 1

緩和ケアの教育内容 10 項目について順位回答法にて関心を尋ねたところ、高かった項目は、症状マネジメント（身体症状）平均 2.65、意思決定支援 3.12、アドバンス・ケア・プランニング 3.62、症状マネジメント（精神症状）4.03、疼痛マネジメント 5.00、家族ケア 5.50、チームケア 6.18、スピリチュアルケア 7.00、遺族へのケア・グリーフケア 8.18 であった（表 3）。

教育ニードアセスメントツールの総得点は、46 点から 119 点の範囲にあり、平均 72.5 点 (SD19.5) であった。各下位尺度の平均得点は、下位尺度 が 8.5 点 (SD3.3)、下位尺度 が 10.7 点 (SD3.1)、下位尺度 が 8.9 点 (SD3.3)、下位尺度 が 10.3 点 (SD3.6)、下位尺度 が 9.6 点 (SD3.0)、下位尺度 が 11.2 点 (SD3.5)、下位尺 が 13.3 点 (SD3.8) であり、「主体的に学習・研究を行い、看護専門職者としての発達を志向する」で教育の必要性が最も高く、次いで「看護職・病院・病棟全体の発展を考慮し、その機能の維持・向上に努める」であった。総得点の領域が 98 点以上の高得点であった割合は 5.3%、70 点以上 97 点以下の中得点領域が 57.9%、69 点以下が 36.8% であった。

表3 緩和ケアの教育内容の関心

内容	順位
1 症状マネジメント（身体症状）	2.65
2 意思決定支援	3.12
3 アドバンス・ケア・プランニング	3.62
4 症状マネジメント（精神症状）	4.03
5 疼痛マネジメント	5.00
6 家族へのケア	5.50
7 チームケア	6.18
8 スピリチュアルケア	7.00
9 遺族へのケア・グリーフケア	8.18
10 その他	9.55

##### (2) 研究 2

###### 対象者

対象者全体の平均年齢は 39.95 歳、看護師経験年数平均 16.94 年、循環器病棟経験年数平均 7.11 年であった。緩和ケアに関する院内研修受講経験は 56.4%、院外研修受講経験は 30.8%、心不全患者の看取り経験は 82.1% であった。

###### 緩和ケアに関する医療者の知識・困難感・実践尺度の変化

両群ともに介入直後の知識は上昇し、1 か月後の困難感は低下する傾向が認められた。一方、実践については短期間では得点が上昇せず、長期的に評価を行うことが必要である。

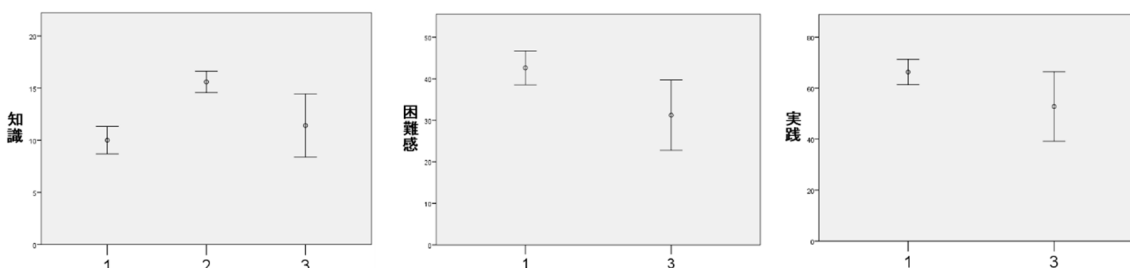


図1 介入群における知識・困難感・実践尺度の変化

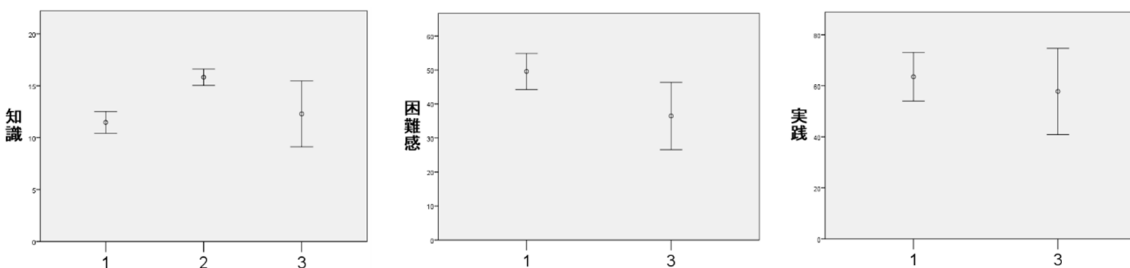


図2 対照群における知識・困難感・実践尺度の変化 1:介入前,2:介入直後,3:1 か月後

###### 介入プログラムの評価

介入直後におけるプログラムの評価 7 項目について、10 段階評価で回答を得た結果、7.0～8.9 と両群ともに概ね良好な評価が得られた（表 4）。

表4 介入直後におけるプログラムの評価

項目	介入群	対照群
研修会（講義資料）は今後の実践に役立つ内容であった	8.3±1.5	8.7±1.2
研修時間（講義資料の分量）はちょうどよかった	7.9±1.9	8.4±1.8
研修内容（講義資料）はわかりやすかった	8.1±2.2	8.7±1.3
研修内容（講義資料）の難易度はちょうどよかった	7.7±1.6	8.2±1.4
心不全の緩和ケアに関する基本的な知識を得る期間になった	8.4±1.7	8.9±1.2
研修会（講義資料）は今後の実践の自信に繋がった	7.0±2.1	8.3±1.3
e-Learning による継続した学習を希望する	7.8±2.0	8.5±1.5

( )は対照群への質問

平均±標準偏差

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Miho Matsui	4. 巻 28 (5)
2. 論文標題 Nurses' symptom management and views on death and caring for heart failure and chronic obstructive pulmonary disease	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of palliative Nursing	6. 最初と最後の頁 214-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.12968/ijpn.2022.28.5.214	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Miho Matsui
2. 発表標題 Nurses' evaluation of palliative care seminar for heart failure
3. 学会等名 World Congress on Patient Safety & Nursing Healthcare (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Miho Matsui
2. 発表標題 Relationships between caring for dying non-cancer patients and their families and communication among nurses in hospital settings
3. 学会等名 IAGG Asia/Oceania Regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miho Matsui
2. 発表標題 Educational needs of palliative care for heart failure patients among cardiovascular nurses
3. 学会等名 8th International Conference on Euro Nursing & Healthcare (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松井美帆
2. 発表標題 心不全緩和ケア研修に参加する看護師の教育ニーズアセスメントツールを用いた評価の検討
3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miho Matsui
2. 発表標題 Symptom management of cerebrovascular and cardiovascular disease in end-of-life stage
3. 学会等名 22nd World Congress of Gerontology and Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松井美帆
2. 発表標題 心不全緩和ケアに関する看護師の教育ニーズの検討
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松井美帆
2. 発表標題 看護師を対象としたオンライン研修の効果に関する検討
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松井美帆
2. 発表標題 緩和ケアの教育・研修プログラムに関する調査研究における医療職者の教育ニーズの検討
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松井美帆
2. 発表標題 非がん疾患患者をケアする看護師の緩和ケアに関する研修参加状況
3. 学会等名 第26回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松井美帆
2. 発表標題 緩和ケアに関する看護師を対象とした教育・研修プログラムの文献的考察
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miho Matsui
2. 発表標題 Palliative care seminar and symptom management for heart failure patients
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------